

令和 6 年 5 月 22 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01389

研究課題名（和文）東南アジア・オセアニア地域における呪術の効果に関する文化人類学的研究

研究課題名（英文）Cultural anthropological study of the effect of magic in South-east Asia and Oceania

研究代表者

白川 千尋（SHIRAKAWA, Chihiro）

大阪大学・大学院人間科学研究科・教授

研究者番号：60319994

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 6,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、呪術の担い手（呪者）による施術の効果は、当事者たち（呪者やそのクライアントなど）にいかなる形で効果のあるものとして受け容れられているのか（あるいは、いないのか）を、東南アジアとオセアニアを研究対象地域として明らかにしようとした。その結果、施術の現場で使われるモノやそれを介して当事者たちが感受する感覚とならんで、感覚が当事者たちに共有されてゆく際などに用いられる言葉がきわめて重要であること、そうした言葉のなかでは生物医学的・科学的な概念や物語が無視し得ない役割を果たしていることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、近年の文化人類学的呪術研究が取り上げてこなかった事象（生物医学・科学と呪術の関係）や問い（呪術の効果はいかなる形でリアリティをともなったものとして社会的に受容されているのか）に焦点を当てた点、および呪術の効果の社会的受容に迫る際にモノ、感覚、言葉の三者関係に着目するという従来の研究にない視点に依拠した点において、学術的独自性の高いものであった。また、そのような学術的意義だけにとどまらず、VUCA時代の現代世界に遍在する呪術的思考・実践の適切な理解にも貢献し得る点で、社会的意義も併せもつものであったと言える。

研究成果の概要（英文）：This study sought to clarify how the effects of the magical practices of the practitioners are (or are not) accepted as effective by the people involved in South-east Asia and Oceania as the study area. As a result, it became clear that, in addition to the things used in the practice and the senses that are obtained through them, the role of the language used when the senses are shared socially is extremely important, and that biomedical and scientific concepts and stories occupy a certain weight in such language.

研究分野：文化人類学

キーワード：呪術 効果 東南アジア オセアニア 文化人類学

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は呪術に関する文化人類学的研究である。研究開始当初においてこの分野の研究の中心的な位置を占めていたのが、アフリカを主たる研究対象地とした「呪術とモダニティ」論であった。P. Geschiere の著書 *The Modernity of Witchcraft* や H. Moore と T. Sanders の共編著書 *Magical Interpretations and Material Realities* をはじめとするこれらの研究は、モダニティに関わるものとしてグローバル資本主義やネオリベラリズム的政策といったマクロな政治経済的動向に着目し、それと連動して生じているとされる社会的不平等や経済格差を、研究対象地の人々が呪術といかなる形で関連づけているかを明らかにしてきた (Geschiere 1998, Moore and Sanders (eds.))。

一方、「呪術とモダニティ」論が着目した政治経済的動向とならんで近年のマクロな動向として無視できないのが、科学および科学的な価値観や考え方のグローバルな浸透である。たとえば生物学やそれに基づく西洋医療の地域社会への浸透は、国連で2000年に採択された「ミレニアム開発目標(MDGs)」や、その後継として2015年に採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」に関わる施策の実施にともなって加速度を増している。とくにSDGsでは「誰一人取り残さない」のモットーの下、世界のすべての人々が安全で効果的な医療を利用できるようにするとの目標が掲げられ、生物学や西洋医療の普及に関わる施策がこれまで以上に積極的に推進されている。しかし、「呪術とモダニティ」論は、こうした状況下で各地の地域社会への浸透度を深めている生物学や科学と呪術の関係には十分に目を向けてこなかった。

他方で、「呪術とモダニティ」論では、往々にして「呪術=社会的不平等や経済格差が生じている必然性を説明するもの」といった分析が行われてきた。しかしその反面、呪術を理解するうえで本質的とも言える「当事者たちは呪術をいかなる形でリアリティをともなったものとして経験しているのか」という問いは、不問に付されてきた。

## 2. 研究の目的

上の1.で述べた学術的背景を踏まえて、本研究では「呪術とモダニティ」論が取り上げてこなかった諸点に着目しようとした。それを問いの形で具体的に述べると次のようになる。生物学や科学の浸透下で、当事者たちは呪術をいかなる形でリアリティをともなったものとして経験しているのか。その際、生物学・科学はどのような波及効果を及ぼしているのか。これらが本研究の核心をなす学術的問いである。

この問いは本研究の「最終的な目的」とも換言できるが、そこで触れた「呪術のリアリティ」は抽象的で漠然としており、直接研究対象とするには難がある。そこで、本研究では対象をより具体的かつ明確にするために、「呪術の担い手(呪者)による施術の効果」に的を絞った。そして、施術が当事者たちにいかなる形で効果あるものとして受け容れられているのか(あるいは、いないのか)を、民族誌的情報に基づき明らかにしようとした。同時に、施術の効果が経験される場において生物学・科学がどのような役割を果たしており、いかなる波及効果を及ぼしているのかを解明することも試みた。これが先の「最終的な目的」に迫るための、本研究の「より直接的な目的」である。

## 3. 研究の方法

### (1) 当初計画

上の2.で述べた目的に迫るために、本研究では現地調査で得た民族誌的情報に基づき、呪者の施術が当事者たちの間で効果あるものとして受け容れられる(あるいは、受け容れられない)プロセスやその社会的背景などを実証的に明らかにしようとした。ここで言う当事者たちには、呪者とそのクライアント、およびクライアントの付き添いをはじめとしたその周囲の人々が含まれる。

加えて、本研究では複数の事例の比較検討を通じて目的に迫ることを試みた。そのため、本研究では4名のメンバーが、表1に示したように三つの国の四つの地域に分かれ、それぞれ個別に毎年度1回ずつ、各回約2週間の現地調査を実施する計画であった。これら3カ国はキリスト教圏(ヴァヌアツ、フィリピン)と仏教圏(タイ)に大別できるが、両宗教圏を対象とすることによって、調査で得た知見のキリスト教圏ないし仏教圏における独自性、あるいは双方の違いを超えた普遍性を明らかにすることを意図した。また、東南アジアとオセアニアを対象地域を限定することで、アフリカを主な舞台として蓄積されてきた「呪術とモダニティ」論をはじめとする文化人類学的呪術研究の知見を相対化することも考慮した。

メンバーは各自の調査で、表1の「調査対象例」に挙げた呪者各2、3名とその施術を中心的な対象とした聞き取りや参与観察を行う予定であった。また、各メンバーが調査で得た情報は、毎年度2回開催する研究会の研究発表で取り上げ、ほかのメンバーと共有するとともに比較検討の対象とする計画であった。

表 1 本研究の研究組織

氏名	区分	調査対象国・地域	調査対象例
白川千尋	代表者	ヴァヌアツ・エファテ島	民間治療師の呪術的治療
飯田淳子	分担者	タイ・チェンマイ県	仏教僧の呪術的治療
川田牧人	分担者	フィリピン・セブ島	民衆キリスト教呪者の施術
津村文彦	分担者	タイ・コーンケン県	俗人治療師の呪術的治療

## (2) コロナ禍による計画変更

ところが、本研究の当初研究期間(2019~22年度)の初年度に当たる2019年度の最終四半期に、新型コロナウイルス感染症の世界的流行が勃発した。この不測かつ未曾有の事態にともない、上の3.(1)で述べた当初計画は大幅な変更を余儀なくされた。

もっとも大きな影響を受けたのは3カ国、4地域で実施する計画であった国外での現地調査である。2019年度には研究分担者の飯田が夏期休暇期間中にタイでの調査を実施できたものの、春期休暇期間に実施予定であったほかのメンバーは流行の世界的拡大によって調査を行うことができなくなり、2020年度と21年度にはメンバー全員が実施できなかった。また、当初研究期間の最終年度に当たる2022年度には飯田が、研究期間を延長した23年度には飯田と研究分担者の津村がそれぞれタイでの調査を行うことができたが(ただし調査期間短縮などの制約有り)流行の影響が色濃かった国や地域では依然として調査の実施に際して種々の制約が残り、そうではない国・地域でも予定していたスケジュールや期間に沿って調査を行うことが困難であった。このため、2022年度と23年度の両年度においても調査を実施できないメンバーが複数出ることになり、とくに研究代表者の白川と分担者の川田は研究期間中に当初計画していたヴァヌアツとフィリピンでの調査を行うことがまったくできなかった。

こうした状況から、白川と川田は調査対象地を奄美地方などの日本国内に急遽変更し、流行が下火となってから調査を行った。また、メンバー全員が、国外での現地調査に対する代替措置として文献やインターネットなどを通じた情報収集を実施することで、本研究に係る民族誌のおよび理論的知見の蓄積と深化に努めた。

## 4. 研究成果

しかしながら、研究期間を1年延長し、上の3.(2)で述べたような方策によって想定外の事態の打開を図りはしたものの、本研究の主柱であった国外での現地調査を当初計画どおり十分に実施できなかった影響はきわめて大きく、研究開始前に想定していた研究成果を挙げることは(少なくとも本報告書執筆時点においては)残念ながら難しくなってしまうと言わざるを得ない。ただし、不十分であるとは言え部分的に行うことができたタイや日本国内での現地調査と、海外での現地調査に代わって実施した文献やインターネットなどを通じた情報収集からは、今後、文化人類学的呪術研究を深化させてゆくうえで有意義な知見を少なからず得ることができた。以下ではそれらの知見から主要なものとして5点を取り上げて簡潔に述べ、本報告書を締め括る。

### (1) モノと感覚

まず、呪者の施術の場を対象としたタイや日本国内での聞き取りや参与観察からは、施術の場で使われるモノとそれを通じて当事者の感受する感覚が、施術の効果が当事者にリアリティをともなったものとして受容される際にきわめて重要な役割を果たしていることが明らかになった。

たとえば分担者の津村が調査の対象とした東北タイのリシと呼ばれるパラモン系の呪者による、古代パラモン隠者の仮面を信者の頭にかぶせて呪力を補填するコープシアン儀礼の場合、仮面というモノと、その頭部への接触やリシによる呪文の詠唱と吹きかけ、儀礼が行われる場の騒然とした雰囲気などを通じて信者が感受するさまざまな感覚に触発されることによって、信者は身体の震えや筋肉の硬直を経験したり、異言の発話や特定の神的存在の憑依を意味するジェスチャー表現などを半ば無意識的に行ったりする。モノと感覚による触発を通じてこうした非日常的な事態が現出することが、呪力の補填という儀礼の効果がリアリティをともなったものとしてコープシアン儀礼の当事者たちに受容されるプロセスにおいては重要である。また、儀礼に参加する複数の信者の誰もが異言を発したり、憑依状態に陥ったりするわけではなく、非日常的な事態が一様には現出しないというある種の不確実性も、儀礼の効果の受容を理解するうえでは看過できない。

### (2) 感覚と行為の受動性

上の4.(1)で述べたように、東北タイのコープシアン儀礼に参加する信者たちは、自ら意図せずして身体の痙攣や筋肉の硬直を経験してしまったり、異言の発話やジェスチャー表現をしてしまったりする。これらの身体感覚や行為は当事者による主体的なものではなく、受動的な

ものである。

また、代表者の白川と分担者の川田が対象とした奄美地方のシャーマンであるユタの調査では、ユタがその施術の場において自然に口をついて出る言葉やカミサマと呼ばれる神的存在から預かった言葉を多用していることが明らかになった。これらの言葉はユタやそのクライアントの間において、「カミサマに語らされた」言葉や「カミサマから預かった」言葉と捉えられている。この表現にも端的に表れているように、そこには主体的な語りというよりもむしろ受動的な発話としての色彩が色濃く認められる。これは、「カミサマのメッセージをクライアントに中介する者としてのユタ」というこの地方のユタをめぐる社会的認識とも符合する特徴である。

呪者の施術の場でしばしば認められる感覚や行為における以上に述べてきたような受動的な側面は、施術の効果がリアリティをともなったものとして受容されるプロセスにおいて見落とすことのできないファクターであると考えられる。

### (3) 言葉

ただし、東北タイのコープシアン儀礼においてさらに留意する必要があるのは、信者の経験する身体の震えや筋肉の硬直、異言の発話、憑依といった非日常的な事態が、呪力の補填との関連で位置づけられているという点である。つまり、わけのわからない音声が発することが異言の発話として、動物のような振る舞いをするのが神的存在の憑依として捉えられているということである。これは、より分析的に言えば、非日常的な事態が「異言」や「憑依」といった概念の下に、あるいは「異言の発話」や「神的存在の憑依」といった物語の下に言語化されているとも言える（概念や物語の語については、野矢の相貌論における用法を念頭に置いて使用している（野矢 2016:201-212））。こうした概念化や物語化の機序において言葉はきわめて重要な位置を占めている。この点で、コープシアン儀礼に参加する信者たちに現出する事態が「異言の発話」や「神的存在の憑依」として捉えられ、呪力の補填との関連で位置づけられるプロセスを適切に理解するためには、先に4.(1)で取り上げたモノや感覚とならんで言葉の役割にも注目しなければならない。

同じことは白川と川田が調査の対象とした奄美地方のユタの例にも該当する。先に4.(2)で触れたように、ユタの施術の場では自然に口をついて出る言葉やカミサマと呼ばれる神的存在から預かった言葉が多用される。こうした言葉は「カミサマに語らされた」言葉や「カミサマから預かった」言葉として言語化されることを通じて、そのようなものとしてユタやクライアントなどに受容されている。

以上のような言葉の役割は、呪者による施術の効果が複数の当事者たちの間で社会的に共有されてゆくプロセスにおいてはとりわけ重要である。言葉によって言語化されることで、モノなどを介して当事者が感受する感覚は、その直接の当事者自身に概念化・物語化されるとともに、その周囲の関係者たちにもそのようなものとして共有される。さらには、施術の場という限られた空間や時間を超えた時空の広がりの中で複数の人々に共有されてゆく可能性をはらむものともなっていく。

### (4) 生物医学的・科学的言葉

一方、本研究では、上の4.(3)で取り上げた言葉のなかでは呪術的・宗教的な概念や物語だけにとどまらず、生物医学的・科学的なものもまた頻繁に用いられていることが明らかになった。たとえば分担者の飯田が調査の対象とした北タイの治療師や、白川と川田が調査の対象とした奄美地方のユタは、施術の場で生物医学や科学に由来する概念や用語なども使用しながら、クライアントやその付き添いなどの関係者に対応していた。そのような生物医学的・科学的な概念などは、生物医学者や科学者の視点からみれば生物医学や科学とは似て非なるもの、いわば疑似科学的な側面をもつものと捉えられる可能性も有するものである。この点で、それは施術を行う呪者の生物医学や科学に対する独自の理解や認識（生物医学観、科学観）に裏打ちされたものとも言えよう。

施術の場における以上のような生物医学的・科学的な言葉の用いられ方には、主として二つの傾向が認められた。一つは、呪者がクライアントなどに対して解釈や説明を行う際に、それを補強するような形で生物医学的・科学的な概念などを用いるというものである。これは、生物医学的・科学的な言葉に依拠することで、呪者が自説をクライアントの受け入れやすい形に概念化・物語化しているものと捉えることができる。

もう一つは、自身の解釈や説明を生物医学的・科学的なものと対置させる際に、これらの概念などを用いるというものである。つまり、生物医学的・科学的な概念などでは捉えきれないものごと、たとえば神的・霊的存在やそれらの所業などが、生物医学的・科学的な言葉が用いられることによって対抗的に浮き彫りにされるのである。それによって、生物医学を駆使する医師の対応する領域の埒外にあるものごとの存在と、そうしたものごとにも対応し得る呪者の施術の独自性や存在意義が示されているとみることが出来る。

### (5) 臨床と非臨床

以上の4.(1)から(4)で述べてきた諸点は、いずれも呪者による施術の場において看取することのできたものである。この施術の場を仮に呪術の「臨床」と呼ぶならば、そこから離れた時空間において呪者が自らの知識や技術を説明したり、クライアントをはじめとした呪者以

外の人々（非呪者）が呪者やその知識・技術を評価したりするといった場も想定できる。これを先述の「臨床」に対して「非臨床」と呼び、以上の「呪者／非呪者」と「臨床／非臨床」を組み合わせると、表2のようなマトリクスが得られる。先に（1）から（4）で述べた諸点はいずれもこの表のとに該当することがらである。そこ（呪術の「臨床」）では、モノ、感覚、言葉が重要な役割を果たしている。

表2 呪術の臨床と非臨床

	呪 者	非 呪 者
臨 床		
非臨床		

しかし、呪者による施術の効果が社会的に受容される際には、「臨床」におけるそれらのファクターの働きだけでなく、「非臨床」における呪者や非呪者をめぐる動向にも注目する必要がある。本研究では、施術の効果の受容に際して、表2の や に該当することがら、具体的には呪者とその施術に関する呪者自身や非呪者の説明、解釈、評価といった「非臨床」における言葉も、当事者たちによって参照されていることが確認できた。それらの言葉には、呪者やクライアントなどが著した冊子や書物などはもとより、しばしば画像をともなって SNS などを通じて電子空間に流布されるさまざまなテキスト情報なども含まれる。これら「非臨床」の言葉が「臨床」でも参照されることで、あるいは「臨床」から離れた時空間において「臨床」の経験と照合されることで、呪者による施術の効果はリアリティをともなったものとして社会的に共有される場合が往々にしてあることにも十分留意しなければならない。

#### 文献

野矢茂樹 2016 『心という難問 - 空間・身体・意味』 講談社。

P. Geschiere, 1998, *The Modernity of Witchcraft: Politics and the Occult in Postcolonial Africa*. University Press of Virginia.

H. L. Moore and T. Sanders (eds.) *Magical Interpretations and Material Realities: Modernity, Witchcraft and the Occult in Postcolonial Africa*. Routledge.

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計25件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 川田牧人	4. 巻 -
2. 論文標題 島の地産地 笑 論 - ヴァナキュラーに笑い合う余興笑芸人たち	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 菅豊編『ヴァナキュラー・アートの民俗学』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 245 - 265
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津村文彦	4. 巻 -
2. 論文標題 呪術と宗教 - 「信じること」は宗教に不可欠なのか	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 箕曲在弘・二文字屋脩・吉田ゆか子編『東南アジアで学ぶ文化人類学』昭和堂	6. 最初と最後の頁 137-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白川千尋	4. 巻 -
2. 論文標題 ヴァヌアツ・トンゴア島民の感染呪術における呪物のサブスタンス化	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 松尾瑞穂編『サブスタンスの人類学 - 身体・自然・つながりのリアリティ』ナカニシヤ出版	6. 最初と最後の頁 153-179
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mariko MORISHITA, Junko IIDA, Hiroshi NISHIGORI	4. 巻 28
2. 論文標題 Reconstructing the Concept of Empathy: An Analysis of Japanese Doctor's Narratives of Their Experiences with Illness	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Advances in Health Sciences Education	6. 最初と最後の頁 87-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10459-022-10143-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川田牧人	4. 巻 10
2. 論文標題 日常生活に浸透する現代呪術 - ポップでライトでカジュアルで	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 怪と幽	6. 最初と最後の頁 30-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川田牧人	4. 巻 -
2. 論文標題 妖怪の交響楽	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 小松和彦編『新装復刻版・怪異の民俗学3 - 河童』河出書房新社	6. 最初と最後の頁 109-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津村文彦	4. 巻 23
2. 論文標題 書評 長岡慶著『病と薬のコスモロジー』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 文化人類学研究	6. 最初と最後の頁 120-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32262/wsca.23.120	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津村文彦	4. 巻 -
2. 論文標題 より善い人を生み出すイレズミ - タイのサックヤンにみる宗教性と暴力	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 山本芳美・桑原牧子・津村文彦編『身体を彫る、世界を印す - イレズミ・タトゥーの人類学』春風社	6. 最初と最後の頁 87-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白川千尋	4. 巻 -
2. 論文標題 伝統文化をめぐる争い	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 栗本英世・モハーチ ゲルゲイ・山田一憲編『シリーズ人間科学7 - 争う』大阪大学出版会	6. 最初と最後の頁 185-204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村周平・後藤亮平・飯田淳子・照山絢子・堀口佐知子・宮地純一郎・濱雄亮・春田淳志・小曽根早知子・金子惇	4. 巻 86
2. 論文標題 総合診療医が守るもの	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 文化人類学	6. 最初と最後の頁 674-685
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14890/jjcanth.86.4_674	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川田牧人	4. 巻 50
2. 論文標題 書評 宮脇聡史著『フィリピン・カトリック教会の政治関与』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東南アジア - 歴史と文化	6. 最初と最後の頁 140-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川田牧人	4. 巻 59(2)
2. 論文標題 書評 吉沢ゆりあ著『民族衣装を着た聖母』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東南アジア研究	6. 最初と最後の頁 337-340
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 津村文彦	4. 巻 54(4)
2. 論文標題 イサーンの森からの帰還 - 『ブンミおじさんの森』と精霊の民族誌	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 120-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fumihiko TSUMURA	4. 巻 57(3)
2. 論文標題 Magical Efficacy in Sensory Experiences: Practice of Blowing Doctor in Northeast Thailand	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Meijo Bulletin of Humanities	6. 最初と最後の頁 23-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白川千尋	4. 巻 -
2. 論文標題 呪術を理解する - 文化人類学的アプローチ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岡部美香編 『シリーズ人間科学 6 - 越える・超える』 大阪大学出版会	6. 最初と最後の頁 97-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白川千尋	4. 巻 -
2. 論文標題 感覚・マテリアリティ・言葉 - ヴァヌアツにおける邪術と科学の関係を起点として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 川田牧人・白川千尋・飯田卓編 『現代世界の呪術 - 文化人類学的探究』 春風社	6. 最初と最後の頁 305-328
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯田淳子・庵谷千恵子・桑原篤恵	4. 巻 51(6)
2. 論文標題 他者理解の視点と方法を育むエスノグラフィ教育	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医学教育	6. 最初と最後の頁 678-684
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯田淳子	4. 巻 -
2. 論文標題 あるはずのないものへの疑念 北タイにおける呪術と情動	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 川田牧人・白川千尋・飯田卓編『現代世界の呪術 - 文化人類学的探究』春風社	6. 最初と最後の頁 415-436
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川田牧人	4. 巻 -
2. 論文標題 現代世界において呪術を問うこと	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 川田牧人・白川千尋・飯田卓編『現代世界の呪術 - 文化人類学的探究』春風社	6. 最初と最後の頁 7-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津村文彦	4. 巻 -
2. 論文標題 不可視を「見る」、不可解を「語る」 東北タイにおける呪術と感覚経験	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 川田牧人・白川千尋・飯田卓編『現代世界の呪術 - 文化人類学的探究』春風社	6. 最初と最後の頁 355-388
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津村文彦	4. 巻 49
2. 論文標題 書評 椋橋彩香著『タイの地獄寺』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東南アジア - 歴史と文化	6. 最初と最後の頁 229-233
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川田牧人	4. 巻 -
2. 論文標題 世俗と宗教	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大村敬一・湖中真哉編『「人新世」時代の文化人類学』NHK出版	6. 最初と最後の頁 145-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川田牧人	4. 巻 -
2. 論文標題 「歴史」する聖地空間	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 菅豊・北條勝貴編『パブリック・ヒストリー入門 - 開かれた歴史学への挑戦』勉誠出版	6. 最初と最後の頁 326-330
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fumihiko TSUMURA	4. 巻 3
2. 論文標題 Tattoos for Beauty and Magic: An Anthropological Study of the Sakyan Tattoo in Thailand	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of the Faculty of Foreign Studies	6. 最初と最後の頁 21-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津村文彦	4. 巻 -
2. 論文標題 開放系コミュニケーション - 東北タイにおける経産婦の病ピットカブンの事例研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 杉島敬志編『コミュニケーション的存在論の人類学』臨川書店	6. 最初と最後の頁 84-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 津村文彦
2. 発表標題 5Gで呪術はすぐに効くようになった - タイの呪師のオンライン実践と感覚経験
3. 学会等名 京都人類学研究会シンポジウム「情動と仮想空間 - 感覚を通じた距離と共在の再考」
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Fumihiko TSUMURA
2. 発表標題 Re-engaging the World by Hermit's Tattooing: Religious Practice of Reusi in Northeastern Thailand
3. 学会等名 19th IUAES-WAU World Anthropology Congress 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川田牧人
2. 発表標題 人はいかにしてシロウト芸人になるか
3. 学会等名 現代民俗学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 川田 牧人
2. 発表標題 共感から共歓へいたる途
3. 学会等名 現代民俗学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Fumihiko TSUMURA
2. 発表標題 Magical Tattoos and Possession in Northeastern Thailand: Sakyan as Knowledge, Power, and Body
3. 学会等名 14th International Conference on Thai Studies (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 津村文彦
2. 発表標題 山口亮太著『妖術と共にあること』へのコメント
3. 学会等名 第68回ASCセミナー、日本アフリカ学会関東支部2022年度第4回例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 飯田 淳子
2. 発表標題 揺らく道徳 / 倫理 - COVID-19に対応するプライマリ・ケア医の語りと実践から
3. 学会等名 日本文化人類学会第55回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 津村文彦
2. 発表標題 東北タイにおけるパラモン教の現代的潮流 - モノ、巨像、SNSから考える宗教経験の変容
3. 学会等名 日本文化人類学会第54回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Chihiro SHIRAKAWA
2. 発表標題 Traditional Medical Practitioners and their Knowledge: A Case Study from Tongoa Island, Vanuatu
3. 学会等名 IUAES Inter Congress 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Junko IIDA
2. 発表標題 Power and Sensibility: Two Healers in Northern Thailand
3. 学会等名 IUAES Inter Congress 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Makito KAWADA
2. 発表標題 Considering Magical Ability from the Perspective of Individuality and Personality
3. 学会等名 IUAES Inter Congress 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fumihiko TSUMURA
2. 発表標題 Introduction: Portraits of Magical Practitioners
3. 学会等名 IUAES Inter Congress 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fumihiko TSUMURA
2. 発表標題 Fake Makes Genuine: The Magical Reality of Brahmanistic Hermits in Northeastern Thailand
3. 学会等名 IUAES Inter Congress 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Fumihiko TSUMURA
2. 発表標題 "Instagrammable" Religion: A New Perspective on "Brahmanism/Hinduism" in Thailand
3. 学会等名 SEASIA Biennial Conference 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 津村文彦
2. 発表標題 書評セッション 椋橋彩香著『タイの地獄寺』
3. 学会等名 日本タイ学会第21回研究大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 トーマス・チョルダッシュ著、飯田淳子・島園洋介・川田牧人監訳、津村文彦・野波侑里・堀口佐知子・村津蘭訳	4. 発行年 2024年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 457
3. 書名 聖なる自己 - カリスマ派の癒しの文化現象学	

1. 著者名 川田牧人・松田素二編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 454
3. 書名 世界の冠婚葬祭事典	

1. 著者名 山本芳美・桑原牧子・津村文彦編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 379
3. 書名 身体を彫る、世界を印す - イレズミ・タトゥーの人類学	

1. 著者名 川田牧人・白川千尋・飯田卓編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 480
3. 書名 現代世界の呪術 - 文化人類学的探究	



1. 著者名 飯田淳子・錦織宏編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 288
3. 書名 医師・医学生のための人類学・社会学 - 臨床症例 / 事例で学ぶ	

1. 著者名 川田牧人・及川祥平編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 成城大学民俗学研究所	5. 総ページ数 117
3. 書名 ドイツ民俗学との対話	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	飯田 淳子 (IIDA Junko) (00368739)	川崎医療福祉大学・医療福祉学部・教授  (35309)	
研究分担者	川田 牧人 (KAWADA Makito) (30260110)	成城大学・文芸学部・教授  (32630)	
研究分担者	津村 文彦 (TSUMURA Fumihiko) (40363882)	名城大学・外国語学部・教授  (33919)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------